

歴史

1880(明治13)年	東京法学社(講法局・代官局)設立。在野の法律家・金丸鉄と伊藤修らによって東京駿河台に創られた
1881(明治14)年	東京法学社の講法局を独立させ、東京法学校(主幹・薩埵正邦)となる
1883(明治16)年	政府の法律顧問としてフランスから招かれていたパリ大学のボアソナード博士が教頭に就任
1886(明治19)年	日仏協会の前身である仏学会(会長・辻新次)によって東京仏学校設立
1889(明治22)年	東京法学校と東京仏学校とが合併して、和仏法律学校と改称。箕作麟祥博士が校長となり、自由、清新な学風をさらに発展させた
1903(明治36)年	専門学校令により法政大学と名称を改め、予科、大学部、専門部、高等研究科を設置／初代総理(現在の総長)に、わが国「民法の父」といわれる梅謙次郎博士が就任
1904(明治37)年	清国留学生法政速成科開講
1920(大正 9)年	大学令により初めて私立大学の設置が認可され、財団法人法政大学となる 法学部、経済学部を設置
1921(大正10)年	麹町区富士見町4丁目(現在地)に校舎を新築し移転
1922(大正11)年	法学部に文学科、哲学科を新設して法文学部となる
1944(昭和19)年	工学部の前身の法政大学設立航空工業専門学校を設置
1947(昭和22)年	法文学部が法学部、文学部に改編され、経済学部と合わせて3学部となる。同年7月に通信教育部を設置
1949(昭和24)年	学校教育法により新制大学として発足
1950(昭和25)年	工学部を設置
1951(昭和26)年	私立学校法により学校法人法政大学となる 新制大学院(人文科学研究科・社会科学研究科)を設置
1952(昭和27)年	社会学部を設置
1959(昭和34)年	経営学部を設置
1964(昭和39)年	小金井校舎竣工
1965(昭和40)年	大学院工学研究科を設置
1980(昭和55)年	創立100周年
1984(昭和59)年	多摩校舎竣工。経済学部第一部と社会学部第一部の1年次生、多摩キャンパスで授業開始
1999(平成11)年	国際文化学部、人間環境学部を設置
2000(平成12)年	現代福祉学部、情報科学部を設置／市ヶ谷キャンパスに「ボアソナード・タワー」竣工
2002(平成14)年	大学院人間社会研究科、情報科学研究科を設置
2003(平成15)年	キャリアデザイン学部を設置／国際日本大学インスティテュートを設置
2004(平成16)年	大学院社会科学研究科7専攻を改組、7研究科編成となる／大学院法務研究科(法科大学院)を設置／大学院イノベーション・マネジメント研究科を設置／国際日本大学インスティテュートに博士課程を設置
2005(平成17)年	スポーツ・サイエンス・インスティテュート(SSI)を設置／大学院システムデザイン研究科を設置
2006(平成18)年	大学院国際文化研究科を設置
2007(平成19)年	デザイン工学部を設置
2008(平成20)年	理工学部、生命科学部、GIS(グローバル教養学部)を設置／大学院政策創造研究科を設置
2009(平成21)年	スポーツ健康学部を設置
2010(平成22)年	現代福祉学部を福祉コミュニティ学科、臨床心理学科に改組／大学院デザイン工学研究科を設置
2011(平成23)年	小金井キャンパス「北館」「管理棟」竣工
2012(平成24)年	大学院公共政策研究科を設置
2013(平成25)年	大学院キャリアデザイン学研究科、理工学研究科を設置／小金井キャンパスに「中央館」竣工
2014(平成26)年	生命科学部を生命機能学科、応用植物科学科、環境応用化学科に改組／市ヶ谷キャンパスに「一口坂校舎」竣工
2015(平成27)年	大学院連帯社会インスティテュートを設置
2016(平成28)年	大学院スポーツ健康学研究科を設置／市ヶ谷キャンパスに「富士見ゲート」竣工 英語学位プログラム(GBP・SCOPE・IIST)を設置
2018(平成30)年	英語学位プログラム(IGESS)を設置
2019(令和 元)年	市ヶ谷キャンパスに「大内山校舎」竣工
2020(令和 2)年	「H0SEIミュージアム」開設
2021(令和 3)年	市ヶ谷キャンパス55・58年館建替工事の竣工
2025(令和 7)年	地域創造インスティテュートを設置

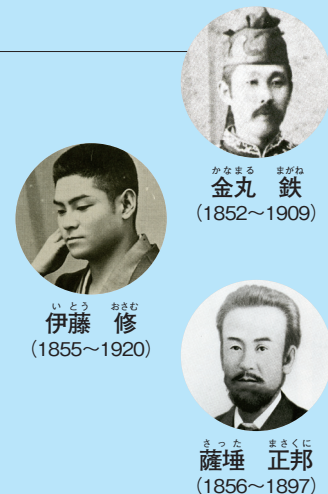


草創期の功労者

■東京法学社の設立者たち

法政大学の歴史は、1880(明治13)年4月に設立された「東京法学社」に始まります。この年は、わが国憲政史上に重要な地位を占める国会期成同盟が結成され、国会開設上願書が太政官に提出されるなど、自由民権運動の全国的な高揚期に当たっていました。法制史上でも、代言人(現在の弁護士にあたる)規則の改正や刑法・治罪法の公布など、近代的法制の整備が緒につきはじめた年でした。東京法学社は、このような時代背景の中で、にわかに高まりはじめた代言業務と法学教育の必要に応えるため、金丸鉄、伊藤修、薩埵正邦らの若い法律家によって、東京神田・駿河台北甲賀町に設立されました。

金丸鉄は1852(嘉永5)年、豊後国杵築藩士の子として生まれ、19歳で上京。独力で出版社時習社を興し、日本最初の法律専門誌「法律雑誌」を創刊した人物です。伊藤修は1855(安政2)年、金丸と同じく豊後国杵築藩士の子として生まれ、1877(明治10)年、代言人免許を得て訴訟業務に従事。また薩埵正邦は、1856(安政3)年、京都の石門心学の家に生まれ、上京。法律を独学中、ボアソナード博士の知遇を得て司法省雇、民法編纂局兼務時に直接指導を受けました。



■G.E.ボアソナード博士(1825～1910)

フランス・ヴァンセンヌ市生まれ。パリ大学を卒業し、博士号を取得した後、1873(明治6)年、政府の法律顧問としてわが国に招かれ、太政官、司法省、外務省などの顧問として、20年間にわたり刑法典、治罪法典、民法典などの法典編纂や、司法省法学校の教授、政府の外交政策への助言などに尽力した人物です。

1883(明治16)年9月、大学の前身である東京法学校(後に和仏法律学校と改称)の教頭に就任した博士は、以後最終帰国まで10年以上にわたり、無報酬で門弟の教育に情熱を注ぎ、大学の基礎固めに精魂を傾けました。

東京法学校は校長を置かず、主幹・薩埵正邦が経営していたので、実質的に本学は「ボアソナードの法学学校」であったといわれています。ボアソナードにより培われたフランス自然法的な近代法の基本理念は、本学の「自由と進歩」の学風をつくりあげる基盤となりました。

2000(平成12)年3月に竣工した「ボアソナード・タワー」は、本学草創期に大きな功績を残されたボアソナード博士にちなんで命名されました。



■梅 謙次郎博士(1860～1910)

1903(明治36)年、専門学校令の公布に伴い、本学は法政大学と校名を改めます。この時、大学部、専門部、高等研究科および予科が設置され、総理(現在の総長)に就任したのが、梅謙次郎博士です。

「空前絶後の立法家」「先天的な法律家」と称された博士は1860(万延元)年、出雲松平侯の侍医の子として生まれました。東京外国語学校仏語科および司法省法学校を首席で卒業。フランス留学では、リヨン大学から法学博士の学位を授与、さらにリヨン市からヴェルメイユ賞碑が贈られ、論文「和解論」は市費出版されるという名誉も受けました。

1890(明治23)年、ドイツ留学から帰国後、和仏法律学校の学監に就任。以来、51歳で急逝するまでの20年余、帝国大学教授、法制局長官、文部省総務長官などの要職を次々と歴任する多忙中、本学の運営に身を挺されました。学生の試験答案にいちいち目を通したばかりでなく、学生の就職にまで奔走しました。

文部省総務長官の時、ドアに「面会日火曜日」と書いてあるその脇に「但し法政大学並びに校友会員はこの限りにあらず」とあり、さらに本学在任中、給与などは一切受け取らなかったといえます。校長、総理時代、本学の諸事業には必ず梅博士の姿が見られました。

